

共に秩父観音巡禮せられたる友人たちと、次なるは坂東廻りを決め、納経帳買ひに行かんと東京唯一の巡禮寺、淺草寺に參る。午前九時半に雷門にて待ち合はす。重たき灰色の雲多く、雨ポツリポツリと落つるにも關はらず、夥しき人數の觀光客所狹しと、參道を行き交ふ。殆どの人日本人にあらずして、女性數人は桃色の濃き花柄の「浴衣」と和傘さし闊歩せる。晩秋の浴衣洵に奇異なれども、外國人は日本人の出立に違ふなしと思ひてあるならん。苦笑を誘はれずんばあらず。

思ひ起すに、數十年前故福田赳夫總理がOBサミットなる會議を箱根にて開催せし事思ひ出す。會場は箱根プリンスホテルなれど、歡迎夕食會は日本建築の建物にて行はる。先週九十六歳にてこの世を去りしドイツの宰相ヘルムート・シュミット他お歴々出そろふ。その中にカナダのトルドー首相浴衣姿にて現る。外國の要人は特段驚くことなけれど、福田總理仰天し、小聲にて吾を招き寄せ、着替ふるやう進言せよと言ふ。「はい」と返答せるも、ウーンと唸るの外なし。外國の元首相に何と説明すべきか思案す。當時世界中の女性の憧れの君に近づき、小聲にて御召物は寢間着の類なれば、着替へ給ふが無難ならん」と提案す。トルドー首相「オーノー」と一言、ニッコリと微笑み日本語にて「アリガトウ」とかかをと翻し部屋を出づ。濃紺の上着に着替へ戻りし首相、オーストリアの女性スタッフの前に立ち、鏡なければ君の瞳を貸したまへと、その女性の瞳をじつと見つめネクタイを締めなほす。世に名高きプレーボーイといふは、そのやうなる仕草すやと他のスタッフと俱にただただ驚嘆す。

浴衣やペラペラの生地を着物らしき「服」を外國人來て歩む姿は觀光地におきて散見せらるるが、國の傳統的なる服裝を外國人が着る際は注意を拂はざれば、笑ひものに近し。日本人とて海外旅行する際には氣を附くべし。

(平成二十八年二月八日受附)